



和 ～心をつなぐ～

令和4年11月18日

第5号



小さな命が教えてくれました

和光中学校では、毎月「道徳の日」に、さまざまな人の生き方や社会情勢について話を聞き、自分自身の心と向き合いじっくり考える時間をもっています。11月は、アメリカのイエローストーン国立公園で起こった森林火災の現場で、森林警備隊員が見た「ある小さな命」に学びました。



何人かの感想を紹介します。

〔※ 裏面：放送内容〕

☆ 1年生 ☆

- 母鳥も人間と同じ『気持ち』があるということが分かりました。
- 母鳥は逃げることもできたのにどうしてそこまでして守りたかったのだらうと思いました。自分の命は犠牲にできないけれど、この母鳥みたいに優しい心を持った人間になりたいです。
- 自分が思っている以上に母が子どもを思う気持ちは強いんだなあと感じました。

☆ 2年生 ☆

- 僕はまだ子どもです。今日の放送のひなのようなものです。今の僕にはどうして親がそこまでして子どもを守るのかが今ひとつ分かりません。でも、もう少し大人に近づくとその答えがわかるような気がします。親が子どもを守るほどではないけれど、僕は、今いる友達や家族などを守りたいです。なぜならその人たちが大好きだからです。
- 鳥も「愛」をしっかりもっていると知って、これまで自分が思っていたのと違って、なんだか自分が恥ずかしいと思ってしまいました。

☆ 3年生 ☆

- たとえ母の使命だとしても、死は怖いものなのに子どもを守り続けたのは、それだけ子どもを愛していたからだと感じました。最後まで逃げずに子を愛し続けた母鳥を尊敬します。
- 母鳥はひなを守って死んだことに悔いはないと思います。
- 子が親を思う気持ち以上に、親が子を思う気持ちは大きいことがよくわかった。
- 人や動物には「使命」があることを知りました。自分の大切なものを守るために生きているのだと分かりました。自分も大切なものを守るために頑張りたいと思いました。
- 子どものためなら命を捨てられるなんて、本当に強いと思いました。僕もみんなを大切にできるようにになりたいです。

★保護者の皆様へ

お子様と意見の交流をして、ぜひ感想などをお気軽にお寄せください。

切り取り線

保護者通信欄（お子様を通じて担任へお渡しください。）

イエローストーン国立公園は、アメリカの北西部にある国内 No.1 の人気を誇る国立公園です。その広さは、四国のちょうど半分ぐらいです。手つかずの自然の美しさや、数々の野生動物の姿を見るために、毎年、世界中から観光客がやってきます。コロナの影響もあったのか、昨年（2021年）に訪れた観光客の数は480万人と、過去最高を記録しました。

イエローストーン国立公園の大自然の中で、地上最大の哺乳類：アフリカ象から小さな小鳥まで、さまざまな生き物が共に暮らしています。今日は、世界180か国に読者をもつ、世界で最も多くの人を読んでいる雑誌の一つ「ナショナルジオグラフィック」に掲載された記事を紹介します。この自然豊かな公園で起きた森林火災の現場で森林警備隊員が発見した一羽の鳥のお話です。

何日も森を燃やし続けた火がやっと消し止められた頃、森林警備隊員たちは被害状況を確認するために、火災現場を歩いていました。山へとさしかかった時のことです。一人の警備隊員が地面で死んでいる鳥に気がつきました。鳥は焼けていましたが、どうも逃げようとした形跡がないように見えるのです。むしろ死が訪れるまで、じっと静かにそのときを待っていたようにさえ見えました。

不思議に思った警備隊員は棒を取り出すと、その鳥の遺体をひっくり返してみました。すると、死んだ鳥の羽根の下から、なんと3羽の雛が走り出てきたではありませんか。

きっと母鳥には分かっていたのでしょう。自分の愛する子どもたちは飛ぶことができない。ましてや炎や煙から走って逃れることもできない、と。母鳥は必死で子どもたちを集め、自分の羽根の下に抱いて彼らを守ったのです。

母鳥は迫り来る火から逃れ、助かることだってできたはずですが、しかし、そうはしませんでした。母鳥としての使命があったのです。母親の頭にあったのは、ただ一つ「子どもを守ること」。この母鳥は、炎が近づいてくるのをじっと待っていたのでしょう。

小さな母鳥の遺体からは、その表情をうかがい知ることはできません。でも、母としての使命を果たし、子を守るために死にゆく「天命」をじっと待っていた母鳥は、きっと穏やかで安らかな表情を浮かべていたことと思います。

☆ 保護者の方からの感想 ☆ 9月(後半)「トイレづくりに見た『真の支援』」

- ・13年もの間、独立後間もないアジアの国へ支援活動を続けてきたのが日本企業だということを誇らしく感じました。そして、その支援がトイレを作るということにも。「本当に必要としている支援＝真の支援」を相手の立場に立って行っている姿を見習うべきだと思いました。
- ・真の援助とは、お金で済ませたり、一時的に援助したりするものではなく、将来、またその先を見据えた継続的な援助のことだと思いました。理想を語り、人に指示するだけの人ではなく、率先して動ける大人になってほしいと思います。
- ・物を与えるだけでは解決策にはならず、教育に資金を使っていくべきだと思います。ユニセフの先を見据えた活動に心打たれました。
- ・豊かな国に生まれた私たちにとってトイレがあるのは当たり前、水が出るのも当たり前であり、他国のこういう話を聞くことで自分たちが恵まれていることを自覚します。自分が幸せであることで他者の幸せを願うことができます。毎月の『道徳の日』、勉強も大切ですが子どもたちの心を育てるためにとても大切な時間だと思います。
- ・真の援助とは、物理的なものだけではなく、人の命を最優先にする「心に寄り添った援助」のことだと思いました。いつの日も、周りの人や遠く離れた人にも優しく思いやりを持てる人でいてほしいです。

(紙面の都合上、感想の一部のみ掲載しています。ご了承ください。)